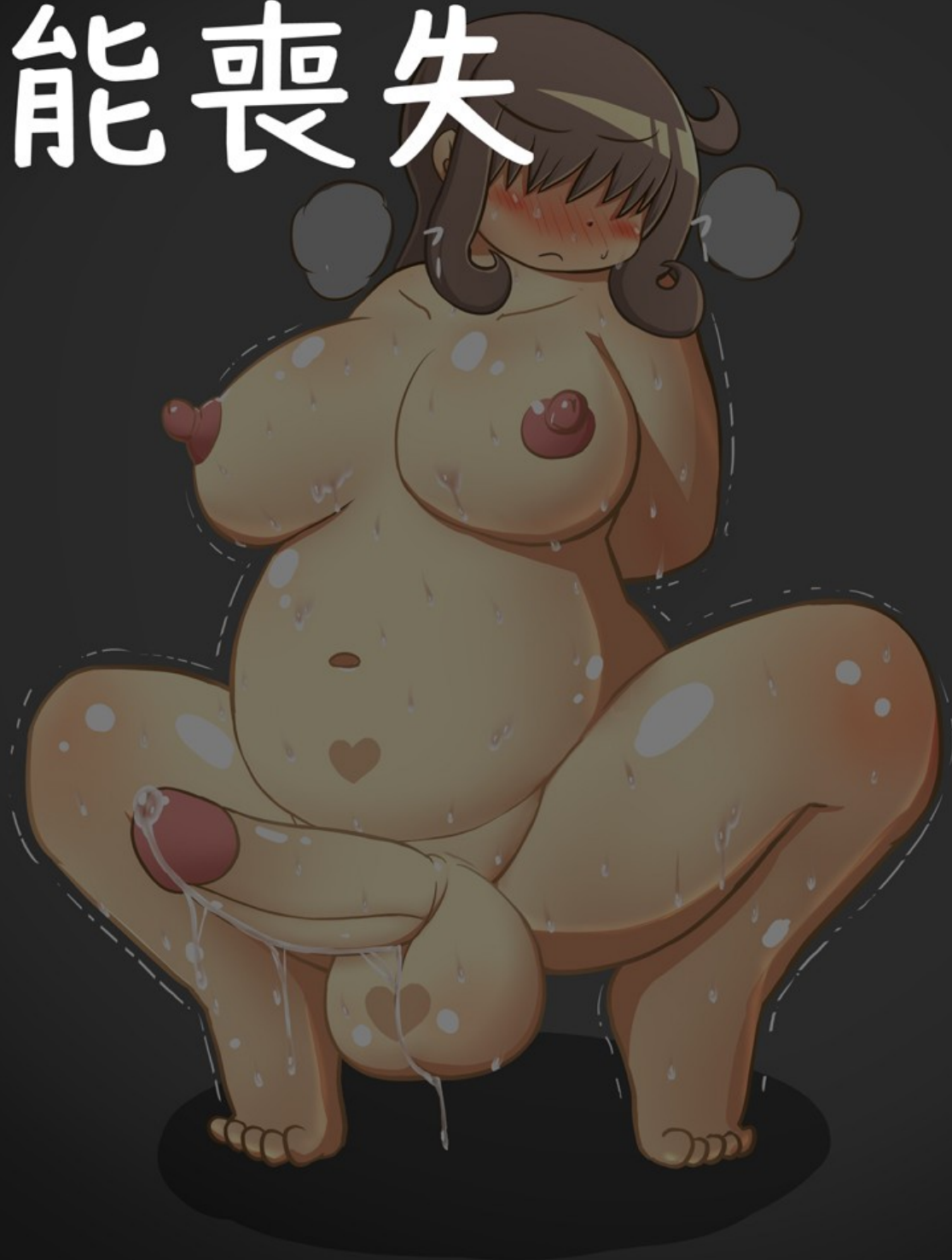


才能喪失



突如森の中に発生したダンジョン・ゲート。

賢者のアメリアは単身調査に向かった。

しかし、不思議な空間に歪みに取り込まれたアメリアは、
そのまま気を失ってしまったのである。

「ん……あ……」

「あ、おはよー。
あなた街のすぐ近くに倒れてたんだよ。
わたしが介抱したの。」

「え……あ、ありがとうございます……」
そう呟くと、アメリアは朦朧としたまま辺りを見回した。



「へえ？……

え！？……な、なにこれ！？」

アメリアは自分が置かれた異常事態に吃驚した。

まず、衣服を一切身につけていない。

その上、アメリアの股間には巨大な男性器がそそり立っている。

男性器はそそり立ち、先端からはトロトロの粘液が溢れ出し、

性的な興奮を示していることがひと目で分かる。

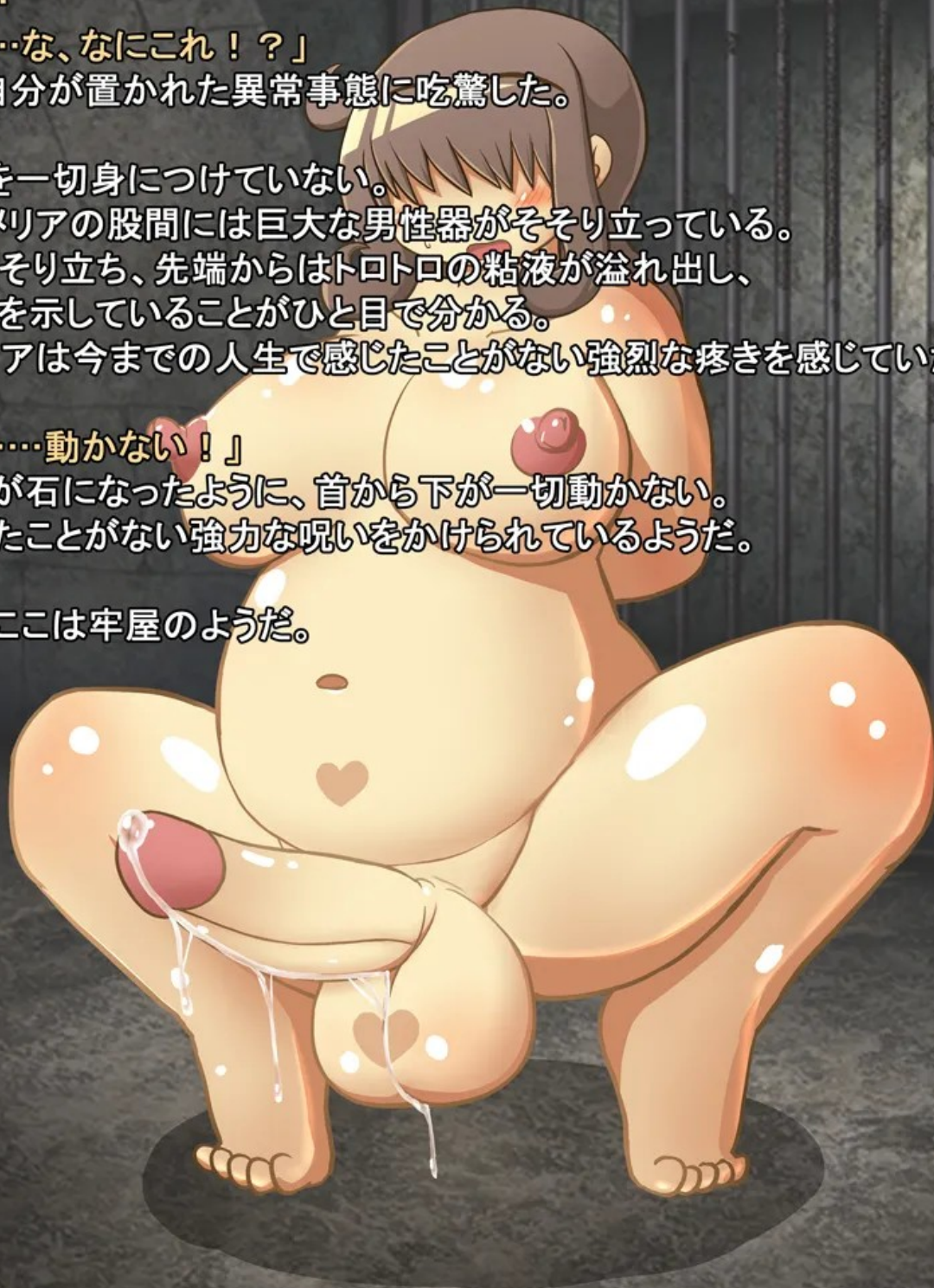
事実、アメリアは今までの人生で感じたことがない強烈な疼きを感じていた。

「か、体が……動かない！」

まるで全身が石になったように、首から下が一切動かない。

今までに見たことがない強力な呪いをかけられているようだ。

よく見ると、ここは牢屋のようだ。





「魔界へようこそ♡
それから敗北おめでとう！」

「な！？ま、魔界！？」
その女の肌は青色をしており、明らかに魔族であることを示していた。

「不用意に魔界のゲートに飛び込むなんて、本当におバカなんだから！」

「ふ、ふ、ふざけないで！」
アメリアは破壊の魔法を唱えはじめた。
しかし、どんなに集中しても魔法を発動させられない。

「あーあー、抵抗しようなんて考えないほうが良いよ。
人間は魔界じゃ魔法を使えないんだよ。」





「おちんちんって見たことある？
あ、こんなデブだとパートナーなんかいないよね？
アハハハ！」

「ほ、ほっというてよ！」

「あなたのおちんちは特別製でね。
あなたの持っている賢者の才能や素質を
全部精液と一緒に出しちゃうんだよ♡」

「つまりあなたは射精するたびにどんどん無能になっていくの♡」





「ちんちん疼いてしょうがないよね？

あなたの才能もこんな変態の身体から出ていきたいって♡」
そう言うと言族の女はアメリアのペニスを掴みしごき始めた。

「く、くあああああああ！

だ、だめ！そこは触っちゃだめえええ！』





「なに我慢してんだよ。
とっとと射精しろよ。この豚。」

「出さない……！くう…！
絶対に出さないんだから……！」

「アホみたいにエロ汁まき散らしてればいいんだよ。おら。」
魔族の女はより激しくアメリアのペニスを扱き上げる

「う、うああ！だ、だめ！それだめえ！！」

「く、くう……！射精るっ！射精るっ！！」





「あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、
う、くあああああああああ！！！！」

アメリカは身体をビクビクと痙攣させると、ペニスから大量の精液を吹き出した。人生で初めての強烈な快感の中、たくさんの大事なものを失ってしまった気がする。しかし、既に何を失ってしまったのか思い出すこともできない。

「あつ……あつ……」

快感の余韻と喪失感からアメリカは朦朧としていた。

しかし――

「えあ……？あつ…あつあつ、あああ！」

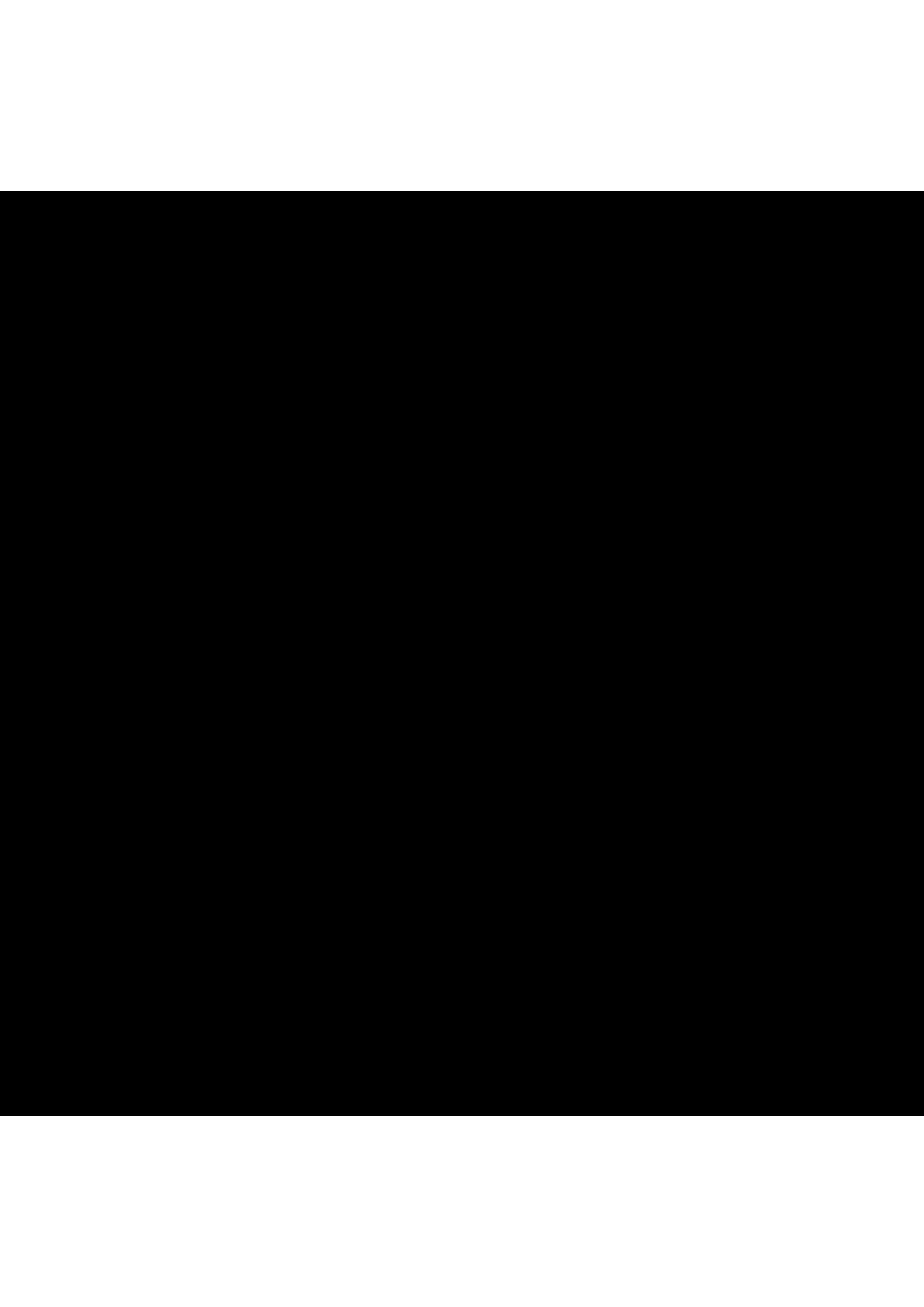
小ぶりのスイカほどもある大きさの睾丸が活動を開始。

巨大な精巢は即座にパンパンに満たされてしまうのだった。

アメリカのペニスに耐え難い射精欲が襲い掛かる。







「う、く、あ、うう…」

それからアメリアのペニスには機械が取り付けられた。
機械は自動的にアメリアのペニスをしごき、
その表面を撫で回し、何度も射精へと導く

「う、くあ…ふあ、だ、だめ……また…射精るっ…！！」



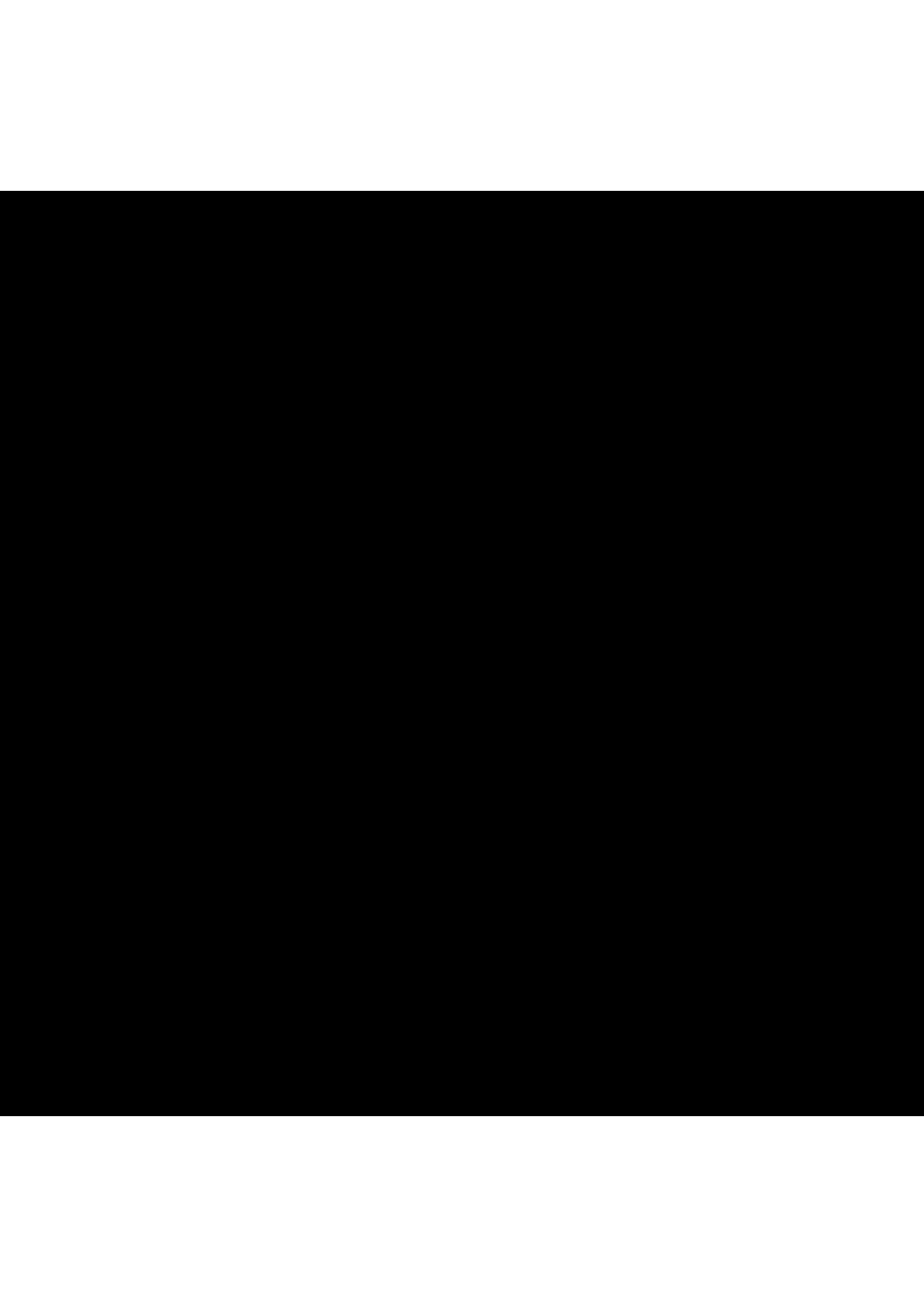


「くおおおおお！！
んおおおおお！！！」

無限に続く射精地獄は、アメリカがすべての才能を吐き出し尽くすまで続いた。







「ハ—...ハ—...」

数え切れないほど射精し、賢者としてのすべての才能を吐き出してしまったアメリカ。耐え難い敗北感と喪失感に打ちひしがれ、ただ呆然とするばかりであった

「うわー。だいぶザコになっちゃったね。
もう三歳児にも勝てないかもよ♡」

しかし、睾丸は未だに精液で限界まで満たされ、射精欲は一切萎えることがない。アメリカの才能の総量とは無関係に精液を生成するようだ。





「じゃあ、これおみやげ♡

もう射精しなくても良いんだよ♡」

魔族はアメリアのペニスに再度あの機械を取り付けた。

しかし、その先端はカバーで覆われており、一切射精が出来ない作りになっている。

「え！？ なっ！？ くああああ！！」

再度快感地獄に落とされたアメリア。

しかも、今度の装置は性的絶頂まで封印してしまうのだ。





「お、お、くおおおおお！！」

「イクッ、イクッイクッ！」

「い、イケないいいい！」

でないでないでないでないでないいいい！！」

「外して！外してくださいいいい！！」

「ばっちり呪っておいたから、もう外せないよー♡」

「そ、そんな！」

「ああああああ、出したい出したい出したい出したい！！」

「じゃあそろそろ人間界に戻してあげるね♡

もう一生射精できないんだから、頑張って才能取り戻してねー♡」





それからアメリアは人間界で生活することになった。
しかし、ろくに身動きが出来ず、24時間性的に焦らされている身体で
まともな生活を送ることはできなかった。

アメリアは奴隷となり、人々の慰み者として
虐められながら生きていくことになった。





